

施策評価シート（令和3年度 実績）

基本目標	地域産業の振興を図り、仕事を生み出しやすい環境をつくる
------	-----------------------------

施策評価（施策主管部長）

施策	地域農林業の活性化		評価者	都市部長		
施策内容	食糧の自足だけでなく地域環境の保全の観点からも、農林業に対する取り組みは重要であると認識し、新規就農者の確保や特産物の普及、有害鳥獣対策など、多方面からの支援を実施します。					
主な事業	予算等事業名		行政評価結果	KPI達成への有効性	説明	
	1	農業振興事業	適当	有効だった	計画どおり新規就農者の実績を積み上げることができた。	
	2	遊休・荒廃農地対策事業	適当	有効だった	農地の所有者に対して、遊休・荒廃農地の解消に努めるよう促した。	
	3	特産物普及奨励事業（農業再生事業）	適当	有効だった	特産物が拡大しているので、生産量の増大も進めていく。	
	4	有害鳥獣対策事業	適当	有効だった	捕獲頭数は減少したが、被害数は横ばいであり一定の成果があった。	
重要業績評価指標（KPI）①	指標名	新規就農者数（人）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	2	2	2	2	A
	実績		2	3	-	
	分析	計画通り推進できた。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案		-	
重要業績評価指標（KPI）②	指標名	町内オリブの生産量（トン）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	1.1	1.5	1.8	2.1	B
	実績		1.09	1.41	-	
	分析	生産量の向上を見込んだが、台風の接近、長雨などの影響により、達成することができなかった。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案		-	
重要業績評価指標（KPI）③	指標名	有害鳥獣の捕獲数（頭）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	57	120	100	100	C
	実績		124	51	-	
	分析	前年度と比較し、捕獲頭数は減少したが、被害数は横ばいであり一定の成果があった。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案		-	

達成状況：A 達成（100%以上）、B 概ね達成（70%以上）、C 充分とは言えない（50%以上）、D 未達成（50%未満）

施策の取り組み	成果	<ul style="list-style-type: none"> 新規就農者の確保に努め、計画どおりの実績となった。 遊休・荒廃地の解消を図りつつ、広域防護柵の設置をしたことで前年度と比較し、捕獲頭数は減少したが、被害数は横ばいであり一定の成果があった。 			
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ①新規就農者の確保を含め、農業の担い手不足は深刻な問題であり対策が必要となる。 ②オリーブの生産性の向上を図ることが必要である。 ③鳥獣による農業被害は終わりの見えない対策であり、農業者と連携を図り更なる対策が必要となる。 			
	改善点 (課題番号 に対応)	<ul style="list-style-type: none"> ①全国的に担い手が不足しているため、県やJAによる支援策と連携し、引き続き新規就農者の確保に努める。 ②オリーブの高付加価値化を図ることが急務であり、年度末に申請した「地域団体商標登録」の認定に向けて、周知性を高めていく施策を検討していく。 ③町有害鳥獣対策協議会との連携による広域防護柵の設置、町補助金による自主防除の支援のほか、町実施隊の組織強化、県補助金による捕獲奨励により、引き続き鳥獣による農業被害の防止に努める。 			
	評価	<input type="checkbox"/>	地方創生に非常に効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/>	地方創生に相当程度効果があった
		<input type="checkbox"/>	地方創生に効果があった	<input type="checkbox"/>	地方創生に対して効果がなかった

外部評価（二宮町政策評価委員会）

施策評価	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要	<input checked="" type="checkbox"/>	施策実現に向け順調であるため継続実施
	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け課題があるため見直しが必要		
意見	<ul style="list-style-type: none"> ●特産品としてオリーブに力を入れるのであれば、知名度や販売数の増加が必要なので、オリーブについての授業や町民活動でオリーブに関連した事業の支援、各家庭での積極的なオリーブの使用促進策を行うなど、町内を挙げて盛り上げていく流れを作る必要がある。 ●二宮で農業を行う上でのアドバンテージを活かした提案をしていくことが重要である。例えば、生産者の顔が見え、さらに距離が近く新鮮な野菜を届けることができるのは二宮で農業を行うことの付加価値となり得る。こういったことをしっかりと発信していくことが重要である。 ●有害鳥獣のKPIは、捕獲数ではなく農業被害の有無が重要であることから、KPIを「有害鳥獣による被害数」など、見直しを検討する必要がある。 ●例えば、近年取り組みが進むスマート農業のテスト地として場所を提供するなど、積極的に遊休地等の活用の取り組みを進める必要がある。また、このような取り組みを通じて町の魅力を知ってもらえるようにするべきである。 			

今後の方針（二宮町総合戦略推進本部）

	予算等事業名	行政評価の 方向性	総合戦略	
			方向性	特記事項
1	農業振興事業 (担当課：産業振興課)	現状維持	継続推進	・県やJAなどの関係機関と連携して、新規就農者も含めた、農業の担い手確保に努める。
2	遊休・荒廃農地対策事業 (担当課：産業振興課)	現状維持	継続推進	・スマート農業のテスト地として場所を提供するなど、積極的な遊休地等の活用を提案していくことで、遊休・荒廃農地の解消につなげる。

各事業の 今後の方向性	3	特産物普及奨励事業 (農業再生事業) (担当課：産業振興課)	要改善	継続推進	<ul style="list-style-type: none"> ・湘南オリーブについての授業や関連した事業の支援、各家庭での積極的な使用促進策を実施するなど、町内から湘南オリーブの知名度や販売数の増加させる方策を検討する。 ・湘南オリーブの認知度向上による「地域団体商標登録」の認定や、農業における二宮特有の優位性を発信することで、付加価値の創出を図る。
	4	有害鳥獣対策事業 (担当課：産業振興課)	拡大・拡充	継続推進	<ul style="list-style-type: none"> ・広域防護柵の設置や町補助金による自主防除の支援のほか、町実施隊の組織強化、県補助金による捕獲奨励により、引き続き農業被害防止に努める。